

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	地域で福祉と防災が連携する西豊田インクルーシブ防災活動の実践研究				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	江原 勝幸
	研究分担者	所属・職名	西豊田学区自治会連合会・副会長	氏名	陰山 正敏
		所属・職名	西豊田学区豊田自治会・会長	氏名	田中 利政
		所属・職名	西豊田地区民児協・副会長	氏名	三好 敏晴
		所属・職名	西豊田地区社会福祉協議会・会長	氏名	山田 勝久
		所属・職名	静岡市社協駿河区センター・主幹	氏名	久保田 登子
		所属・職名	静岡市立西豊田小学校・教頭	氏名	小澤 一彰
		所属・職名	静岡市立豊田中学校PTA・会長	氏名	大橋 学武
		所属・職名	静岡市福祉総務課・主任	氏名	青山 遼平
		所属・職名	小鹿苑・主任ケアマネジャー	氏名	塩澤 正子
		所属・職名	静岡市障害者協会・会長	氏名	牧野 裕善
発表者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	江原 勝幸	

講演題目	地域で福祉と防災が連携する西豊田インクルーシブ防災活動の実践研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>令和4年度の本研究活動は、コロナ禍の影響で予定していた「リアル HUG（避難所運営訓練）を含む宿泊型防災訓練及び要配慮者支援シンポジウムは実施できなかったが、研究目的であった要配慮者支援をテーマとする福祉と防災が連携するインクルーシブ防災活動を実施することができた。地域の防災活動は毎年同じ内容のものを形式的に実施し、訓練参加者も固定化し若い世代や要配慮者が参加できていない課題があり、本研究では事前研修及び実践訓練に（1）子育て世代の参加、（2）中学生の参画、（3）要配慮者への支援を取り組み、災害時にも誰一人取り残さない地域づくりを目指した。主な研究成果は①～⑥であり、住民参加型の防災活動を実施することができた。</p> <p>①地域住民及び保健福祉専門職で構成する「西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会（以下、実行委員会）」を4月から合計11回開催し、インクルーシブ防災活動の企画・運営を行った。</p> <p>②静岡市西豊田地区支部と実行委員会が連携し、9/1市地区支部訓練に実行委員が参加。その後⑤の実践訓練において地区支部市職員が参加した。</p> <p>③西豊田学区内医師・静岡市保健師・学区自治会等による西豊田小学校救護所訓練（9/4）に実行委員が参加。その後⑤の実践訓練において救護所立ち上げ訓練を同時開催した。</p> <p>④駿河区地域総務課と連携し、若い世代を含む学区住民を対象とした事前研修を実施した（10/28）。2部制とし、市職員による防災講座「避難所の開設・運営について」及び実行委員による「西豊田小学校避難所レイアウト演習」を行った。</p> <p>⑤12/4に学区地域防災訓練として西豊田小避難所開設訓練を実施した。特に今年度は地域住民が避難所運営を担うこととし、運営本部及び運営8班長を参加者から募り、住民自らが避難所を実際に開設する動きを体験した。それ以外の参加者も実践訓練の準備作業を体験することで避難所開設に求められる配慮や工夫を実際に学んだ。障がい児者や乳幼児など要配慮者の参加者も多く、健康チェックから受付・個別対応を参加者が体験し、中学生も救護所立ち上げの準備等に積極的に参加した。</p> <p>⑥実行委員会で令和4年度のインクルーシブ防災活動をまとめた活動報告書を作成した（3月）。</p> <p>今年度は学区住民主体の防災活動への第1歩となったが、来年度はこの活動を発展させより地域主体でインクルーシブ防災活動が実施できるよう継続実施していく。</p>